



知られざる新聞社のビジネスモデル

新聞の虚偽部数が
深刻な社会問題に

日本全国で発行され、新聞販売店に搬入される朝刊の部数は、約4500万部です。ところが最近、これらの新聞のうち、かなり多くの部数が配達されないまま販売店に山積みなり、定期的に古紙回収業者のトラックで回収されていることが明らかになつてきました。しかも、新聞社はこれらいわくつきの新聞の卸代金をも販売店から徴収しています。いわば新聞を強制的に販売店へ押しつけ、それによつてより高額の販売収入を得ているわけです。

このような新聞を、販売店に対しても押し売りされる新聞というニュアンスで「押し紙」と呼びます。皆さんは、この「押し紙」（写真参照）の驚くべき実態をご存じでしょうか。

全国で初めて「押し紙」の実態調査が行われたのは、1977年のことです。この年、新聞販売店の同業組合である日本新聞販売協会が全国の販売店を対象に「押し紙」の実態調査を行いました。その結果、販売店に搬入される新聞の8・3%（全国平均）が「押し紙」であることが分かりました。

虚偽部数で広告媒体の価値を 高上げ

「押し紙」が増えれば、当然、新聞販

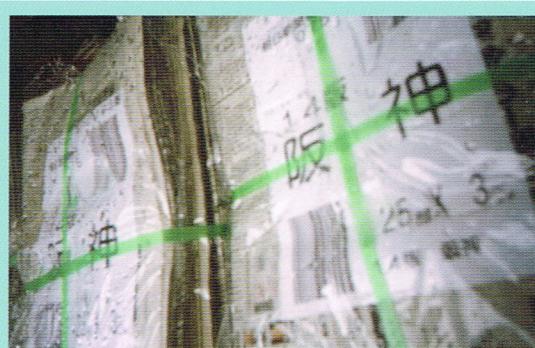
業界のタブーとして水面下に隠れてしましました。もちろん報道もしません。社会の公器たる新聞の信用が失墜してしまったのです。

が、「病」を放置すれば、悪化の一途をたどります。実際、近年インターネットなどの影響で新聞の購読者が激減する情況のもとで、極めて深刻な「押し紙」の実態が浮かびあがってきました。新聞の読者が減つているのに、新聞社が販売店に対する新聞の搬入部数をほとんど減らさないために、「押し紙」がどんどん増えているのです。搬入部数の40%が「押し紙」になつているケースも現実に起っています。わたしたち「押し紙」問題に取り組む弁護団が、緊急にこのパンフレットを作成したゆえんであります。

表1は、産経新聞・東浅草店（東京都）の「押し紙」部数を示しています。



新聞拡販には、洗剤など、多量の景品類が使われる。



ビニール梱包されたままの「押し紙」

売店の経営が圧迫されます。これまでなんとか経営が成り立っていたのは、新聞に折り込まれるチラシの収入や新聞社から支給される補助金で、「押し紙」で生じる損害の一部を相殺していたからです。しかし、広告媒体が多様化するにつれて、折込チラシの需要が減つてきたうえに、補助金の支給額にも限度があるので、これまでのような相殺関係が成り立たなくなつてきました。

新聞社が販売店に補助金を支給してまで「押し紙」を買い取らせるのは、新聞部数の公式データとして定評のあるABC部数を嵩上げすることで、紙面広告の媒体価値を高める戦略があるからです。ABC部数が多ければ、それだけ広告の媒体価値が高くなり、広告収入が増える原則があるのでです。

年間1600億円の不正

「押し紙」によって新聞社は、どの程度の不正な販売収入を得ているのでしょうか。誇張を避けるために、全国の新聞販売店に搬入される朝刊の20%が「押し紙」で、新聞の卸価格が1500円という前提でシミュレーションをおこなってみます。全国の販売店に搬入される新聞は約4500万部ですから、

その20%は、900万部です。これに卸価格である1500円を掛けると、「押し紙」による推定収入が試算できます。答は135億円です。たつた1月でこれだけの不正な金が動く計算になります。1年に換算すると、1620億円です。

繰り返しになりますが、これは極めて控えめなシミュレーションです。

環境問題の引きがねにも

地球の温暖化が深刻な問題として浮上しています。「押し紙」は、配達されないまま破棄されたり、製紙工場へ運ばれるわけですから、環境問題の観点からも見過ごすわけにはいきません。

人目を忍んで早朝にトラックで回収された「押し紙」の一部は、紙の原料として中国にも輸出されています。

このように「押し紙」は、新聞販売店の経営を圧迫するうえに、環境破壊の原因にもなりますが、新聞社はかたくなにその存在を否定し続けています。それは「押し紙」が新聞社経営の根幹にかかる問題であるからにほかなりません。

おちてしまうでしょう。そんな事情もあって良心的な新聞記者やジャーナリストも、「押し紙」廃止の声をあげ始めています。

表1 産経東浅草店の「押し紙」

		実配部数	総部数	「押し紙」
2000年	10月	437	658	221
	11月	430	927	497
	12月	430	934	504
2001年	1月	411	954	543
	2月	416	954	538
	3月	414	954	540
	4月	409	994	585
	5月	404	966	562
	6月	390	966	576
	7月	400	986	586
	8月	398	975	577



「押し紙」と一緒に破棄される折込チラシ。



販売店の台所に積み上げられた「押し紙」。